

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		国語	科 目	文学国語	単 位 数	2
学年・科		3年・ライフデザイン科				
教材	教科書	精選 文学国語（三省堂）				
	副教材					
学 習 目 標		多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	一 読むこと・書くこと・語ること 本を読むと路に迷う 二 小説（一） ベル・エポック 靴 三 詩歌 永訣の朝	・本を読むことの「幸福」について考える。 ・「私」の視点で描かれていることに留意して登場人物の関係を捉える。 ・「靴」の意味を考えることを通して、自分のものの見方、考え方を深める。 ・表現形式や修辞の効果に着目し、それぞれの詩の理解を深める。	期末 考查
2 学期	四 文学の共同制作 連詩の愉しみ 五 小説（二） 靴の話 六 翻訳の言葉 『雪国』の謎一夜の底とは何か	・連詩をつくることを通して、文学の共同制作の意義を理解する。 ・「事実」という言葉を手がかりに「私」の戦争体験を理解する。 ・戦争の記憶を語り継ぐことの意義を考える。 ・優れた翻訳について考える。 ・外国文学を翻訳で読むことの意味を考える。	期末 考查
3 学期	七 小説（三） 檸檬 八 評論 陰翳礼讃	・事物の描写に着目して、「私」の心情を理解する。 ・「檸檬」の舞台・時代背景を調べ、作品への理解を深める。 ・それぞれの評論について文体の特色を理解する。	

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、解釈している。 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。	進んで文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深め、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して解釈しようとしている。

評価方法	定期考查のほか、課題やノートなどの提出物、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	日頃から言葉や文章に興味・関心を持ちましょう。作者の他の作品を読んだり、教科書に取り上げられた作品を全文読んだりするのもよいでしょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科 科		国語	科 目	国語研究	単 位 数	2
学年・科		3年・ライフデザイン科				
教材	教科書	大学入試・小論文 ジャンル別キーワード(桐原書店)				
	副教材	国語必携パーフェクト演習(尚文出版)				
学 習 目 標		多様なジャンルの知識を身に付け、語で適切に表現する能力を養い、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を養う。				

	教材内容	学習内容	考査
1 学 期	国際 政治経済 環境	・国際問題に関する基礎的な知識を学び、考え、自らの意見をまとめる。 ・政治経済に基礎的な関する知識を学び、考え、自らの意見をまとめる。 ・環境に関する基礎的な知識を学び、考え、自らの意見をまとめる。	期末考査
2 学 期	科学・技術 情報・通信 教育・医療・健康	・科学技術に関する基礎的な知識を学び、考え、自らの意見をまとめる。 ・情報通信に関する基礎的な知識を学び、考え、自らの意見をまとめる。 ・教育や医療、福祉に関する基礎的な知識を学び、考え、自らの意見をまとめる。	期末考査
3 学 期	福祉・社会	・福祉、社会に関する基礎的な知識を学び、考え、自らの意見をまとめる。	

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	各ジャンルの知識を適切に理解し、資料やデータ等を正確に読み取ることができる。 各ジャンルの知識、資料やデータを活用し、自分の考えを文章にまとめることができる。	各ジャンルの資料やデータを有効的に活用し、目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	語による表現力を進んで高めるとともに、多様な知識に対する関心を深めたり、国語力の向上に努めたりしている。 資料やデータについて、自分の意見を持ち、積極的に人に伝えようとしている。

評価方法	定期考査のほか、課題やノートなどの提出物、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	日頃から言葉や文章に興味・関心を持ち、インターネットなどを活用して積極的に調べたり、辞書で確認したりしましょう。新書などを読んでみるのもよいでしょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		地理歴史	科 目	日本史研究	単 位 数	2
学年・科		3年・ライフデザイン科				
教材	教科書	なし				
	副教材	学習事項の整理と問題 日本史探究ノート（第一学習社）				
学 習 目 標		1 史料に学ぶことで歴史的思考力を身に付けることを目指す。 2 史料を学ぶことを通じて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	近現代 1 日米和親条約 2 日米修好通商条約 3 大政奉還 4 五箇条の誓文 5 大日本国帝国憲法 6 条約改正と三国干渉	江戸末期からの幕藩体制の動揺と欧米列強のアジア進出について学習する。 明治維新の政治改革と、近代産業の発達とその変化について学習する。	期末 考查
2 学期	7 護憲運動 8 民本主義と天皇機関説 9 社会運動の弾圧 10 満州事変 11 二・二六事件	大正・昭和初期における日本の政治や社会の変動について学習する。 国際関係における日本の立場と第二次世界大戦までの歴史を学習する。	期末 考查
3 学期	12 カイロ宣言とポツダム宣言 13 日本の民主化 14 国際社会の復帰	第二次世界大戦後の日本の政治や社会の動向を国際政治の動きと関連させながら学習する。 現代の日本社会が直面する課題について考察する。	

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。

評価方法	1 知識・技能 … 定期考查の結果をもとに評価します。授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 2 思考・判断・表現 … 定期考查の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 3 主体的に学習に取り組む態度 … 授業態度・提出物などをもとに評価します。
アドバイス	歴史を学ぶことを通じて、事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを考察し、よりよい社会の実現を視野に、現代日本の課題を探究することを目指しましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		公民	科 目	政治・経済	単 位 数	2
学年・科		3年・ライフデザイン科				
教材	教科書	高等学校 政治・経済（第一学習社）				
	副教材	政治・経済ノート（第一学習社）				
学 習 目 標		社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題 第1章 現代日本の政治・経済 [政治分野] [経済分野] 第2章 現代日本の諸課題の探究	政治分野では、日本国憲法と現代政治のあり方、望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方を学習する。 経済分野では、市場経済の機能と限界、持続可能な財政および租税のあり方、金融を通じた経済活動の活性化、経済活動と福祉の向上を学習する。	中間 考查 期末 考查
2 学期	第2編 グローバル化する国際社会の諸課題 第1章 現代の国際政治・経済 [政治分野] [経済分野] 第2章 国際社会の諸課題の探究	政治分野では、国際法の果たす役割、国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について学習する。 経済分野では、相互依存関係が深まる国際経済の特質、国際経済において求められる日本の役割について学習する。	中間 考查 期末 考查
3 学期	現代社会の諸課題	個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して学習する。公正さの観点として、手続きの公正さや、機会の公正さ・結果の公正さに留意する。	

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断している。	よりよい社会の実現を視野に、国家及び社会の担い手として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

評価方法	1 知識・技能 … 定期考査の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 2 思考・判断・表現 … 定期考査の結果や、授業中に行う作業学習などをもとに評価します。 3 主体的に学習に取り組む態度 … 授業態度・提出物などをもとに評価します。
アドバイス	現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		数 学	科 目	数 学 研 究 B	単 位 数	2
学年・科		3年 普通科 キャリア探究コース・ライフデザイン科				
教 材	教科書	数学研究B（小松高校数学科編）				
	副教材	学校設定科目用学校作成教材				
学 習 目 標		数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量、データの分析、場合の数と確率、及び数学と人間の活動の基礎的な知識と技能を習得して、事象を数学的に考察する力や、数学のよさを認識して活用する態度を身に付ける。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学 期	第1章 数と式	- 式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする。 - 不等式の解の意味や不等式の性質について学習し、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする。	中間 考 査
	第2章 集合と命題	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	期 末 考 査
	第3章 2次関数	2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。 2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	
2 学 期	第4章 図形と計量	三角比の意味やその基本的な性質について学習し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、問題解決に三角比を活用できるようにする。	中間 考 査
	第5章 データの分析	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を学習し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、批判的に考察したりできるようにする。	期 末 考 査
	第6章 場合の数と確率	場合の数や確率の意味や基本的な法則について学習し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	
3 学 期	第7章 数学と人間の活動	さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深める。また、学習の中で、現実の事象を、数学を用いて考察できるようにする。	

評価の 観点の 趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	各単元についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。また、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身に付いている。	条件や結論に着目し数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察し、判断する力が身に付いている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎が身に付いている。

評価方法	考查・授業ノート・提出物・小テスト・授業での応答など、全ての学習活動を評価の対象とし、上記の3つの評価規準から総合的に評価します。
アドバイス	日々の授業を大切に、課題に丁寧に取り組んで、継続して学習を積み重ねていきましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		理科	科 目	化学基礎	単 位 数	2
学年・科		3年・ライフデザイン科				
教材	教科書	高等学校 新化学基礎（第一学習社）				
	副教材	ネオパルノート化学基礎（第一学習社）				
学 習 目 標		物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を化学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	第1章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 ・物質の分離、元素、元素の確認 ・物質の三態、原子のなりたち ・同位体、原子の電子配置、周期表 第2節 化学結合 ・イオン・イオン結合 ・共有結合、分子の極性、 ・分子間に働く力・分子からなる物質 ・共有結合、金属結合	・身近な物質を取り上げ、混合物から純物質を分離する操作と科学的に探究する方法を身に付ける。 ・身近な物質を取り上げ、単体や化合物について理解する。 ・粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係により、物質の状態変化が起こることを理解する。 ・原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解する。 ・イオン結合がイオン間の静電的な引力による結合であることや、イオン結合でできた物質の性質を理解する。 ・電子配置と共有結合を関連付け、分子の性質を理解する。 ・自由電子と金属結合を関連付け、金属の性質を理解する。	中間 考查 期末 考查
2 学期	第2章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式 ・原子量・分子量・式量 ・物質量と粒子の数 ・物質量と質量 ・物質量と気体の体積、濃度 ・化学反応式 ・化学反応の量的関係 第2節 酸・塩基とその反応 ・酸と塩基、酸・塩基の強弱	・粒子の数にもとづく量の表し方である物質量の概念を導入し、物質量と質量、物質量と気体の体積との関係について理解する。 ・水溶液の濃度をモル濃度で表したり、濃度の分かっている水溶液中の溶質の物質量を求めたりすることができる。 ・化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解する。 ・酸と塩基の定義や分類を理解し、酸と塩基を価数や強弱にもとづいて分類することができる。	中間 考查 期末 考查
3 学期	・水素イオン濃度と pH、pH の測定 ・中和と塩、 ・中和の量的関係 ・中和滴定、中和滴定曲線 第3節 酸化還元反応 ・酸化と還元・酸化数 ・酸化剤と還元剤 ・金属のイオン化傾向 ・金属の反応性 ・電池、電気分解	・酸と塩基の反応の量的関係を物質量と関連付ける。 ・中和滴定の実験を通して、それぞれの操作がどのような意味をもっているのかを理解し、実験結果に対してどのような影響があるかを考察できる。 ・酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。 ・酸化還元反応を酸化数の増減によって判断できる。 ・酸化還元反応の量的関係を理解する。 ・金属のイオン化傾向や金属の反応性を理解する。 ・酸化還元反応の利用例として、電池や電気分解などがあることを理解し、電池の基本的な知識を身に付ける。	学年 末考 査

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などの、基本的な操作を身に付けている。	自然界や産業界にある事物・現象の中に問題を見つけ、科学的に探究する過程を通して、科学的・論理的に導き出した考えを的確に表現することができる。	自然の事物・現象に関わり、科学的に探究しようとしている。 自然の原理・法則や科学技術と私たちの生活との関わりから、化学に対する興味・関心を高めている。

評価方法	定期考査のほか、課題やノートなどの提出物、小テスト、授業の取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	身近な現象に興味・関心を持ち、インターネットなどを活用して積極的に調べたり、化学に関する本で確認したりしましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		保健体育	科 目	体育	単 位 数	2
学年・科		3年 ライフデザイン科				
教材	教科書	現代高等保健体育				
	副教材					
学 習 目 標		体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を身に付ける。				
	教材内容		学習内容			考查
1 学 期	1 オリエンテーション 2 体づくり運動 3 陸上競技		・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などについて学習する。 ・ペースの変化に対応して走り、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などについて学習する。 ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法などについて学習する。			
	4 選択制授業1 ソフトボール、テニス、バドミントン、バレーボール 5 体育理論1 生涯スポーツの見方・考え方		・豊かなスポーツライフの設計の仕方について学習する。			
	6 選択制授業1 7 体づくり運動		・健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことについて学習する。 ・作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することについて学習する。			
	8 選択制授業2 サッカー、テニス、バスケットボール、バドミントン		・ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方について学習する。また、スポーツの推進は、様々な施策や組織、人々の支援や参画によって支えられていることを学習する。			
2 学 期	9 体育理論2 ライフスタイルに応じたスポーツ スポーツを推進する取り組み 10 ウォークラリー		・作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することについて学習する。			
	11 選択制授業3 サッカー、卓球、バスケットボール、バドミントン 12 体育理論3 豊かなスポーツライフの創造		・スポーツの可能性と問題点を踏まえて、適切な「する、みる、支える、知る」などの関わり方について学習する。			
3 学 期						
評価 の 観 点 の 趣 旨	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。		生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。		生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。	
評価方法		学習カードやスキルテスト、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。				
アドバイス		生涯にわたって運動を豊かに継続することができるよう、体を動かすことの心地よさや、仲間と協力して活動することの楽しさを味わいましょう。				

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		芸 術	科 目	音楽研究A	単 位 数	2
学年・科		3年・ライフデザイン科				
教材	教科書					
	副教材	音楽通論、こどものうた200、標準バイエルピアノ教則本				
学 習 目 標		ピアノ演奏や歌唱の練習を通して、保育に関する音楽・リズム表現技術の向上を目指します。 保育検定2級合格を目標に、ピアノ奏法、ソルフェージュの基礎を身に付けます。				
	教材内容		学習内容			考查
1 学期	バイエルNo. 30～47 童謡歌唱（無伴奏）		ピアノ演奏の基礎的な表現技術について身に付ける。 童謡歌唱の基礎的な表現技術を身に付ける。 基礎的な音楽理論を身に付ける。 ・ピアノの基本的奏法に興味や関心を持ち、個人練習により演奏技術を身に付ける。 ・楽譜の構成要素を理解し、ソルフェージュ能力を高める。			実技試験
2 学期	バイエルNo. 48～78 童謡歌唱（無伴奏） 音楽通論		ピアノ演奏の応用的な表現技術について身に付ける。 童謡歌唱の応用的な表現技術を身に付ける。 ・ピアノの基本的奏法に興味や関心を持ち、個人練習により演奏技術を身に付ける。 ・楽譜の構成要素を理解し、ソルフェージュ能力を高める。 ・音楽理論の基礎を身に付ける。			実技試験
3 学期	バイエルNo. 79～104 童謡歌唱（弾き歌い） 音楽通論		ピアノ演奏の発展的な表現技術について身に付ける。 童謡歌唱の発展的な表現技術を身に付ける。 ・簡単な伴奏により、弾き歌いができる能力を身に付ける。 ・楽曲の特徴を捉え、より豊かに表現する方法を体得する。 ・音楽理論を深く理解する。			実技試験
評価 の 観 点 の 趣 旨	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	ピアノの演奏及び歌唱の練習を通して、保育に関する音楽・リズム表現技術を身に付けている。 曲にふさわしい奏法、歌唱法を身に付け、演奏に生かしている。 音楽理論に関する基礎的な知識を理解している。		保育の実際を想定した歌唱方法やピアノの演奏方法を理解し、どのように表現するか意図を持っている。 自分と幼児との関りや、音楽が人格形成に与える影響を考え、豊かな表現を工夫しようとする。		ピアノ奏法を身に付けることや音楽表現を創意工夫しながら演奏活動をするに関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。 抑揚、アクセント、リズムなどの言葉の特性を感じ取り、意欲をもって歌唱しようとする。	
評価方法		授業中の筆記試験や実技試験のほか、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。				
アドバイス		家庭でのピアノの練習が必要になります。（キーボードでも構いません。）また、音楽用語などの知識をコツコツ覚えることと、のびのびと豊かに表現することが求められます。				

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションII	単 位 数	2
学年・科	3年・ライフデザイン科				
教材	教科書	All Aboard! English Communication II (東京書籍)			
	副教材	All Aboard! English Communication II WORKBOOK (東京書籍)			
学習目標		外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、一定の支援を活用すれば、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりすることができる能力を養う。			

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	Lesson6 Seeds for Future Generations	・動詞の目的語になる if	中間 考查
	Lesson 7 Over the Wall	・関係副詞 when, where	期末 考查
2 学期	Lesson 8 Inspiration from Nature	・知覚動詞	中間 考查
	Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate	・使役動詞	期末 考查
3 学期	Lesson 10 Fighting Angel Reading 2 Bear's Pie	・分詞構文 ・物語の結末を考え、朗読劇を演じる。	学年 末 考 査

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価 の 観 点 の 趣 旨	- 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 - 外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者を尊重し、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話したり書いたりして、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

評価方法	定期考查のほか、実力テスト、授業での小テスト、パフォーマンステスト、課題やノートなどの提出物、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に判断します。
アドバイス	辞書を用意して、自ら学ぶ準備を整えておきましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		外国語	科 目	論理・表現 I	単 位 数	2
学年・科		3年・ライフデザイン科				
教材	教科書	MY WAY Logic and Expression I（三省堂出版）				
	副教材	MY WAY Logic and Expression Iワークブック（三省堂出版）				
学 習 目 標		話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕及び書くことの三つの領域を中心とした総合的な言語活動を通して、発信能力を強化するための発展的な活動を行うとともに、多くの支援を活用すれば、論理の構成や展開を工夫して、話したり書いたりして相手に伝える、又は相互に伝え合うことができる能力を養う。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	Lesson 1 Let's Talk about Ourselves Lesson 2 School Life Lesson 3 The Arts Lesson 4 Food and Culture	○ 現在形[be 動詞と一般動詞] ・自分の趣味や考えを整理して伝える。 ○ 過去形[be 動詞と一般動詞]と進行形 ・部活動や趣味について、正確に書く。 ○ 未来を表す表現 ・週末の予定について説明したり、自分の好きな絵について、伝え合ったりする。 ○ 現在完了形 ・日本の食文化について正確に書くことができる。	中間 考查 期末 考查
2 学期	Lesson 5 Welcome to Our Town Lesson 6 Traveling Abroad Lesson 7 Sports Lesson 8 Everyday Technology	○ 助動詞と受動態 ・自分の地域の特徴について発表する。 ○ 不定詞 ・旅行での出来事について、正確に書く。 ○ 動名詞、分詞 ・車いす競技について、自分の考えを発表する。 ○ 比較表現 ・紙の本と電子書籍のよさについて、自分の考えを伝え合う。	中間 考查 期末 考查
3 学期	Lesson 9 Take Care Lesson 10 SDGs — Take Actions! Lesson 11 Basic Skills	○ 関係代名詞 ・健康について、事実や自分の考えを発表する。 ○ 関係副詞と仮定法 ・SDGs について、事実や自分の考えを伝え合う。 ○ まとめ ・学校生活や自分の夢について、プレゼンテーションを行う。	学年 末 考查

評価の観点の趣旨	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	- 外国語の学習を通じて、言語の働きや役割などを理解し、外国語の音声、語彙、表現、文法の知識を身に付けている。 - 外国語の音声、語彙、表現、文法を、聞くこと・読むこと・話すこと[やり取り・発表]・書くことによる実際のコミュニケーションの場面で運用できる技能を身に付けている。	- 場面・目的・状況等に応じて、情報や考えなどの概要・詳細・意図を外国語で的確に理解したり適切に表現したりしている。 - 外国語で聞いたり読んだりしたことなどを活用して、場面・目的・状況等に応じて、外国語を用いて、情報や考えなどの概要・詳細・意図を適切に伝え合っている。	- 外国語の学習を通じて、言語やその背景にある文化を尊重し、自律的・主体的にコミュニケーションを図ろうとしている。 - 他者を尊重し、聞き手・読み手に配慮しながら、外国語で自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。

評価方法	定期考查のほか、授業での小テストやパフォーマンステスト、課題への取組や授業態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	間違いを恐れずに、積極的に英語を話したり書いたりするように努めましょう。日頃から外国の文化やニュースにも関心を持ちましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		商業	科 目	ビジネス基礎	単 位 数	2
学年・科		3年・ライフデザイン科				
教材	教科書	ビジネス基礎（実教出版）				
	副教材					
学 習 目 標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を育成する。ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学 期	第1章 商業の学習とビジネス	・商業を学ぶ重要性和学び方、ビジネスの役割について、企業の社会的責任や、環境、エネルギー、食料などの社会的な課題及びビジネスの動向・課題について具体的な事例と関連付けて学び必要な豊かな人間性、他者と協働する力を身に付けます。	中間 考 査 期 末 考 査
	第2章 ビジネスとコミュニケーション	・ビジネスマナーの意義を理解し、場面に応じて考え、活動できる力を身に付けます。企業活動における情報の重要性について理解し、情報の活用及び評価・改善を行います。	
	第3章 経済と流通の基礎	・経済の仕組みと流通の必要性について理解します。経済の基本概念、流通の役割など経済と流通に関する知識を基盤として、流通に関する課題を発見し、その解決方法を考えます。	
2 学 期	第4章 さまざまなビジネス	・ビジネスの種類について理解し、流通や流通に関わる様々なビジネスについて学びます。流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、その対応策を考えます。	中間 考 査 期 末 考 査
	第5章 企業活動の基礎	・企業活動の形態と組織、マーケティングの重要性和流れなど企業活動に必要な知識を学びます。企業活動に関する知識を基に、企業活動の動向など、企業活動に関する課題を発見し、その対応策を考えます。	
	第6章 ビジネスと売買取引	・売買取引、代金決済など取引に関する知識や技術を学びます。取引に関する知識や技術を基に、実務における取引に関する課題を発見し、その対応策を考えます。	
3 学 期	第7章 ビジネス計算	・ビジネス計算について学び、その知識と技術で組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につけます。	学 年 末 考 査
	第8章 身近な地域のビジネス	・さまざまな地域のビジネスに関する知識などを基に、身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、その対応策を考えます。ビジネスの振興による地域の発展について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身につけます。	

評価 の 観 点 の 趣 旨	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。	ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。

評価方法	(知識・技術) テスト (思考・判断・表現) ワークシート・レポート (主体的に学習に取り組む態度) 観察シート、議事録、ワークシート、授業に取り組む姿勢・態度などを考慮して、総合的に評価します。観点別に評価し、評定はこれを総括する。
アドバイス	日頃からビジネスをはじめとする経済活動に興味・関心を持ちましょう。そのためには買い物に同行し、市場調査を行うなど、社会の変化に敏感になることもよい勉強になるでしょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		商 業	科 目	情 報 処 理	単 位 数	2
学 年 ・ 科		3 年 ・ ライフデザイン科				
教 材	教科書	情報処理 Prologue of Computer (実教出版)				
	副教材					
学 習 目 標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を身に付ける。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	1章 企業活動と情報処理 1節 情報処理の重要性 2節 情報モラルと法規 3節 コミュニケーションと情報デザイン	・身近な事例を基に情報とは何かを考える学習活動により、情報の意義と役割を理解させる。社会で利用されている情報システムの例や、ビジネスにおける情報活用の実際を学ぶことにより、情報の処理や活用の重要性を理解する。	期末 考查
	2章 コンピュータシステムと情報処理ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要 2節 情報処理ネットワークのしくみと構成	・情報処理に関わる職業や仕事を学ぶことにより、ICT人材に求められる役割と身につけるべき能力の概要を理解する。 ・情報の重要性を理解し、情報を分析して、傾向を把握する能力を身に付ける。	
2 学期	3節 インターネットの活用 4節 情報セキュリティの確保	・ウェブページを活用して情報検索・収集方法を理解させる。 ・情報セキュリティの重要な役割を理解し、その知識と技術を身に付ける。	期末 考查
	3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成 4節 情報の整列・検索・抽出 5節 問題の発見と解決の方法 特集 トレース	・基本的な操作や計算式及び関数について理解し、目的に応じて適切な表の作成する技術を身に付ける。 ・大量のデータを目的に応じた利用しやすい形で活用するために、表計算ソフトのデータベース機能を利用して、整列や検索、抽出の技法について理解する。	
3 学期	4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成 ① ワープロの操作と入力方法 ② ワープロを利用した文書の作成 ③ 社外文書 ④ 社内文書	・文書情報がコミュニケーションの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解する。 ・文書の構成、構成要素の配置、文書作成の要領について理解する。 ・基本的な社内文書や社外文書を取り上げて、作成に関する知識と技術について理解する。	学年 末 考 査
	4章 ビジネス文書の作成 3節 応用文書の作成 ① 表計算を含んだ文書の作成 ② 表計算とグラフを含んだ文書の作成 5章 プレゼンテーション 1節 プレゼンテーションの技法 2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション	・応用的な文書の作成に関する知識と技術について理解する。 ・ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義を理解するとともに、基礎的な技法を身に付ける。 ・目的や形態によるプレゼンテーション方法の違いについて理解するとともに、プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、資料の作成などの発表準備から発表までの一連の活動について理解を深める。	

評価の観点の趣旨	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的根拠に基づいて解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的・協働的に取り組もうとしている。

評価方法	定期考査のほか、課題やノートなどの提出物、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	日頃から情報収集・発信に興味・関心を持ち、インターネットなどを活用して積極的に調べたことを、表やグラフにまとめて分析する力をつけましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		家 庭	科 目	課 題 研 究	単 位 数	2
学 年 ・ 科		3 年 ・ ライフデザイン科				
教 材	教科書					
	副教材	課題研究ノート（自作教材）				
学 習 目 標		専門教科「家庭」に関する各科目の中から自分で課題を見つけ、各科目で学習した知識・技術を総合して、その課題の解決を図る学習をします。				

	教材内容	学習内容	考查
1・2 学期	1. 研究テーマの決定	1. 自分自身の興味・関心や進路希望等に応じて個人又はグループで適切な課題を設定します。 (1) より高度な知識・技術の習得 (2) 学校家庭クラブ活動 (3) 地域との共生によるまちづくり (4) 生活文化の伝承 (5) 多世代交流 などを意識した内容のテーマを決定する。	
	2. 実施計画の立案	2. 課題の解決を図る方策を検討し、学習計画を立てます。	
	3. 実践	3. (1) 調査、研究、実験 (2) 作品製作 (3) 産業現場等における実習 などを活用しながら研究を進めていきます。	
	4. 研究内容の手直し	4. 研究内容の改善を行います。	
3 学期	5. 研究のまとめと成果発表	5. 研究内容をまとめ、成果発表を行います。	

評価の観点の趣旨	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	生活産業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けている。	生活産業に関する課題を発見し、生活産業を担う職業人として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、生活産業の発展や社会貢献に主体的かつ共同的に取り組んでいる。

評価方法	研究態度や実習態度、提出物や作品点（レポート点）で評価します。 定期考査はありません。
アドバイス	課題研究は、特定の科目にとらわれず広く自由な発想で自らが課題を見つけることが大切です。そのためには、日頃から問題意識を持って各科目の授業を受けることが重要です。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		家 庭	科 目	保育実践	単 位 数	2
学年・科		3年 ライフデザイン科 (ヒューマンサービスコース)				
教 材	教科書	保育実践 (実教出版)				
	副教材					
学 習 目 標		子供の表現活動や子育て支援について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付けるとともに、保育に関する課題を発見し、環境の変化に対応した保育を担う職業人として必要な資質・能力を身に付けることを目指します。				

	教材内容	学習内容	考査
1 学 期	第3章 保育の活動計画と実習 第1章 子供の表現活動と保育	1 保育の活動計画 2 保育実習 <保育実習> 1 子供の表現活動の面白さ <保育実習> 2 造形表現活動 3 言語表現活動 <保育実習> <全国高等学校家庭科技術検定保育2級>	期 末 考 査
2 学 期	第1章 子供の表現活動と保育 第2章 子育て支援と保育	4 音楽・身体表現活動 5 情報手段などを活用した活動 <保育実習> 6 表現活動の実際 <保育実習> <全国高等学校家庭科技術検定保育2級> 1 子供・子育ての問題 2 子育て支援のための各施設 <全国高等学校家庭科技術検定保育2級> <保育実習>	期 末 考 査
3 学 期		1年間のまとめ	学 年 末 考 査

評 価 の 観 点 の 趣 旨	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	子供の表現活動や子育て支援について理解し、関連する技術を身に付けている。	保育や子育て支援に関する課題を発見し、子供を取り巻く環境の変化に対応し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	子供と遊び、子供の表現活動などに関心を持ち、保育や子育て支援の実践に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

評 価 方 法	定期考査のほか、作品などの提出物、実習や技術検定、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
ア ド バ イ ス	幼稚園での校外実習を計画しています。意欲的に取り組みましょう。保育技術検定もします。資格取得に向けて頑張りましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		家 庭	科 目	ファッション造形基礎	単 位 数	3
学年・科		3年・ライフデザイン科 ライフデザインコース				
教材	教科書	ファッション造形基礎（実教出版）				
	副教材					
学 習 目 標		1 被服製作に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得します。 2 デザインや着用目的に適した被服材料を選択して、洋服や和服についての製作に関する理論と技術を学習し、計画に従って能率的に製作できる能力と実践的な態度を身に付けていきます。				
	教材内容		学習内容			考査
1 学期	第4章 和服の製作 1 製作の基礎		構成と名称 採寸と断ち切り寸法の割り出し 1 和服とは 2 和服の素材 3 製作のための用具と基本的な技法 【右身ごろづくり】 ① 地直し・しるしつけ ② 裁断・柄合わせ ③ そでづくり ④ えりづくり ⑤ 背縫い ⑥ くりこし揚げ縫い			期末 考査
	2 ひとえ長着の製作		⑦ えり下の三つ折りぐけ・おくみつけ・耳ぐけ ⑧ えりつけ・えり先始末・本ぐけ ⑨ わき縫い・耳ぐけ ⑩ そでつけ・耳ぐけ ⑪ すそ縫い・額縁 ＜全国高等学校家庭科技術検定 和服1級＞ 1 和服の着装 2 和服の種類と用途			
2 学期	3 着 装					期末 考査
3 学期			日本の伝統織物 残り布の活用 ・巾着袋の製作			
評 価 の 観 点 の 趣 旨	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	和服製作に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、さらに計画的・能率的に被服製作ができる専門的な技術を身に付けている。		平面構成の基礎、和服の構成技法、被服材料の特徴について思考を深め知識と技術を活用して適切に判断し、創造する能力を身に付けている。		衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。	
評 価 方 法		定期考査のほか、作品の仕上がり、実習や授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。				
ア ド バ イ ス		被服製作には手先の器用さ、丁寧さ、根気強さが必要です。進度が遅れがちな人は、放課後残るなどしなければ、その後のやる気も作品の出来も落ちていきます。ですから時間内に仕上げられるよう集中して取り組みましょう。				

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		家庭	科 目	ファッション造形	単 位 数	3
学年・科		3年 ライフデザイン科 選択				
教材	教科書	ファッション造形 (実教出版)				
	副教材					
学 習 目 標		「ファッション造形基礎」の内容を発展させ、高度な被服の構成を理解し、デザインや着用目的に応じたファッション造形の知識や技術を学び、ファッション製品を創造的に製作する能力と実践的な態度を身に付けることを目指します。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学 期	第1章 衣服とデザイン 第3章 洋服のつくり方	1 衣服が届くまで 2 衣服のデザイン ジャケットの製作	中間 考查 期 末 考 査
2 学 期	第2章 ファッションショーのつくり方 第3章 洋服のつくり方	1 ファッションとファッションショー 2 ファッションショーの概要 3 ファッションショーの運営 4 ショーの構成 5 コーディネート ジャケットの製作 <全国高等学校家庭科技術検定被服製作1級（洋服）>	中間 考查 期 末 考 査
3 学 期	第5章 服飾手芸	刺繍ほか	学 年 末 考 査

評価 の 観 点 の 趣 旨	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴及び被服製作に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、創造的に被服製作ができる専門的技術を身に付けている。	被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴についての思考を深め、知識と技術を活用して計画的・能率的かつ創造的に被服製作ができる能力を身に付けている。	被服構成の基礎、構成技法、被服材料の特徴に興味を持ち、被服を創造的に製作する意欲と実践的な態度を身に付けている。

評価方法	定期考查のほか、作品などの提出物、実習や技術検定、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	ファッション造形は、高度な技術を必要とする作品を作ります。作品構成をイメージするとともに、縫製に関する事項を理解し、縫製技術を繰り返し練習することが大切です。進度が遅れないよう授業時間を大切にし、集中して取り組みましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		家 庭	科 目	フードデザイン	単 位 数	3
学 年 ・ 科		3 年 ライフデザイン科 ライフデザインコース				
教 材	教科書	フードデザイン Food Changes LIFE (教育図書)				
	副教材	調理実習ノート 基礎編 専門編 (愛媛県高等学校教育研究会家庭部会)				
学 習 目 標		家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指します。				

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	第4章 調理してみよう 1 なぜ調理するのか	① 安全性の向上 ② 栄養性の向上 ③ おいしさの向上 <全国高等学校家庭科技術検定食物調理1級>	中間 考查 期末 考查
2 学期	2 調理操作と調理器具 第5章 各国料理とコーディネート 1 料理の様式 2 テーブルコーディネート	① 非加熱操作 ② 非加熱調理 ③ 加熱操作・加熱調理 ④ 加熱(調理)機器 ⑤ 調理器具とその素材 ① 日本料理の様式 ② 西洋料理の様式 ③ 中国料理の様式 ① テーブルコーディネートとは ② テーブルコーディネートを考える ③ 五感にうたえる要素	中間 考查 期末 考查
3 学期		④ 日本料理のコーディネート ⑤ 西洋料理のコーディネート ⑥ 中国料理のコーディネート	学年 末 考 査

評価の観点の趣旨	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術が身に付いている。	食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

評価方法	定期考查のほか、課題やノートなどの提出物、実習や技術検定、授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	調理実習については、家庭で予習、復習をし、実習に真剣に取り組む、調理技術や知識を身に付ける努力をしましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教科	家庭	科目	調理	単位数	3
学年・科	3年 ライフデザイン科 選択				
教材	教科書	調理1 (実教出版)			
	副教材	調理実習ノート専門編 (愛媛県高等学校教育研究会家庭部会)			
学習目標		家庭の生活にかかわる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、創造的に調理し、健康の保持増進に寄与する食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指します。			

	教材内容	学習内容	考查
1 学期	第1章 食の文化 1 食文化とは 2 さまざまな食文化 3 現代の食文化	(1) 食文化の成り立ち (1) 日本の食文化 (3) アジアの食文化 (2) 食文化の特徴 (2) 西洋の食文化 (4) その他の食文化	中間 考查
	第2章 調理の基本 1 調理とは 2 調理法の特徴 3 食品の調理上の性質	(1) 調理の心がけ (3) 調理の内容 (1) 調理法の分類 (3) 生物調理 (5) 加熱調理－乾熱式 (1) 穀類 (4) 油脂類 (2) 調理の目的と意義 (2) 非加熱調理 (4) 加熱調理－湿熱式 (6) その他の調理 (2) いも類 (3) でんぷん (5) 砂糖 (6) 豆および豆製品	期末 考查
2 学期	4 調理と食味	(7) 魚介類・肉類 (8) 乳および乳製品 (9) 鶏卵 (10) 野菜・くだもの類 (11) 寒天・ゼラチンなど (1) 食味の種類 (2) 味覚の変動 (3) 調味 (4) 官能評価	中間 考查
	第3章 調理の種類と献立 1 日常食 2 日本料理 3 西洋料理	(1) 日常食とは (2) 献立作成 (1) 日本料理の特徴 (2) 日本料理の献立構成 (3) 日本料理の調理 (4) 日本料理の食事作法 (1) 西洋料理の特徴 (2) 西洋料理の献立構成	期末 考查
3 学期	4 中国料理 5 行事食・供応食 6 幼児食・高齢者食 7 病気時の食事	(3) イタリア料理の献立構成 (4) 西洋料理の調理 (5) 西洋料理の様式 (1) 中国料理の特徴 (2) 中国料理の献立構成 (3) 中国料理の調理 (4) 中国料理の食事作法 (1) 行事食 (2) 供応食 (1) 幼児食 (2) 高齢者食 (1) 病人の栄養と献立 (2) 肥満者の栄養	学年 末 考 査

評価 の 観 点 の 趣 旨	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	調理の基礎、献立作成及び様式別調理などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	食生活の現状から調理に関する課題を発見し、調理を通して食生活の充実向上を担う職業人としての合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	調理の面から食生活の充実向上を目指して自ら学び、創造的な調理に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

評価方法	定期考查のほか、課題やノートなどの提出物、実習や授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	調理実習については、今までに習得した知識や技術を踏まえて、創意工夫やアイデアを生かしながら、周囲の人々と主体的かつ協働的に実習に取り組みましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科		福祉	科 目	介護福祉基礎	単 位 数	2
学年・科		3年 ライフデザイン科 ヒューマンサービスコース				
教材	教科書	介護福祉基礎（実教出版）				
	副教材					
学 習 目 標		少子高齢化の現代において、人間の尊厳を支える介護、自立を支援する介護、介護のリスクマネジメント、職業人としての倫理などについて学び、介護が必要になっても人として尊重され、社会の一員として幸せな生活を築いていけるような支援ができるよう介護の専門職として必要な資質・能力を育成することを目指します。				

	教材内容	学習内容	考査
1 学 期	第1編 介護の意義と役割	1 尊厳を支える介護 2 自立に向けた支援	中間考査 期末考査
	第2編 介護福祉の担い手	1 介護従事者をとりまく状況 2 介護従事者の役割と介護福祉士 3 介護従事者の倫理 4 介護実践における連携 <介護実習>	
2 学 期	第3編 介護を必要とする人の理解と支援	1 介護を必要とする人と生活環境 2 高齢者の生活と支援 3 障害者の生活と支援 4 介護を必要とする人の生活を支える支援 5 介護福祉サービスの概要 6 介護課程	中間考査 期末考査
	第4編 介護における安全確保と危機管理	1 介護における安全と事故対策	
3 学 期		2 介護従事者の健康管理 3 感染対策 4 福祉用具と介護ロボット 実習の振り返り	学年末考査

評 価 の 観 点 の 趣 旨	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	高齢者や障害者に対する基礎的・基本的な知識を身に付け、福祉従事者として介護の意義や役割を理解している。また、基本的な介護技術を身に付け、介護活動を計画し、適切な援助活動ができています。	介護が社会から求められている大切な行為であることを認識し、介護を受ける人の気持ちを常に考察している。	介護に関心を持ち、介護活動に意欲的に取り組むとともに、適切な介護サービスを行う能力と態度を身に付けている。

評価方法	定期考査のほか、課題やノートなどの提出物、実習や授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。
アドバイス	介護職員初任者研修に係る授業です。社会人講師による専門的な講義も予定しています。高齢者施設で、介護実習（夏季休業中）を実施します。介護は、高齢者や障害のある方の命と生活に関わる行為です。毎時間の学習を大切にして、基礎的な知識や技術を身に付け、積極的に実習に臨みましょう。

令和7年度 愛媛県立小松高等学校 シラバス

教 科	福祉	科 目	こころとからだの理解	単 位 数	2
学年・科	3年 ライフデザイン科 ヒューマンサービスコース				
教材	教科書	こころとからだの理解（実教出版）			
	副教材				
学 習 目 標		自立生活支援に必要なこころとからだの基礎的な知識を学び、介護実践に活用できる技術を身に付けるとともに、生活支援技術との関連を図り、各器官の機能と基本的な生活行動との関係について理解することで生活支援を行うときの根拠を身に付けます。また、訪問介護員同行訪問実習を行い、利用者について理解するとともに基本的な生活支援技術を身に付けます。			
	教材内容		学習内容		考查
1 学 期	第1編 こころとからだの基礎的理解		1 こころの理解 2 からだのしくみの理解		中間 考查 期 末 考 査
	第2編 生活支援に必要なこころとからだのしくみの理解		1 生活動作に関するこころとからだのしくみ ＜訪問介護同行訪問実習＞		
2 学 期	第3編 発達と老化の理解		2 生活場面の変化に関するこころとからだのしくみ 1 人間の成長と発達 2 老年期の理解と日常生活 3 高齢者と健康		中間 考查 期 末 考 査
	第4編 認知症の理解		1 認知症をとりまく状況 2 認知症の基礎的理解 3 認知症に伴う心身の変化と日常生活 4 認知症と地域サポート		
	第5編 障害の理解		1 障害の基礎的理解		
3 学 期			2 生活機能障害の理解 3 障害に伴う心身の変化と日常生活 4 障害と地域生活支援 実習の振り返り		学 年 末 考 査
評 価 の 観 点 の 趣 旨	知識・技術		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	自立支援に必要なこころとからだに関する基礎的な知識を身に付け、一人一人に適した生活支援技術を実践できる。		サービス利用者の立場に立った「生活支援技術」や福祉の考え方を身に付けている。また、事例研究を通して「生活支援技術」を把握し適切な介護実践例を考え、よりよい介護実践の在り方を考察している。		介護実践に必要なこころとからだの変化に関心を持ち、自立生活支援に意欲的に取り組もうとする実践的態度を身に付けている。
評 価 方 法		定期考查のほか、課題やノートなどの提出物、実習や授業に取り組む態度などを考慮して、総合的に評価します。			
アドバイス		介護職員初任者研修に係る授業です。訪問介護員同行訪問実習では積極的にふれあい、こころとからだの理解の学習に併せて対人援助の基本であるコミュニケーションについての技術を身に付けましょう。			